

北海道師範塾 塾頭通信

「教師の道」

第715号 平成26年4月4日

就活中の学生の意識について（1）

先日の塾頭通信（701号）で、「マイナビ」による大学生の意識調査の中から「イクメン」を希望する男子学生の事を取り上げましたので、今回は同じ調査を基に、就活中の学生の意識について取り上げてみたいと思います。

この「マイナビ」の調査においては「就職活動における自分の武器と欠けているもの」という項目に関して、

- ・就活における最大の武器は何か
- ・就活に際して自分に欠けていると思うもの
- ・就活のネタを作るために実行した事はあるか

という3点の質問が用意されていますので、それらの結果を見ながら、今時の大学生の意思行動を考えてみる事にします。

質問1 就活におけるあなたの最大の武器は何か

回 答	全 体	文系男子	理系男子	文系女子	理系女子
学校で学んだ知識	12.8	8.0	25.1	5.7	20.0
学業成績	5.2	4.0	8.4	3.7	5.3
語学力	2.6	3.3	1.6	3.2	1.1
アルバイト経験	13.7	14.9	10.2	16.4	10.3
情報収集能力	4.0	5.7	4.2	2.6	2.2
行動力	13.2	16.0	11.5	12.4	10.9
コミュニケーション能力	15.3	16.8	13.6	15.6	13.8
熱意	10.1	11.7	10.6	8.9	8.3
笑顔	11.6	8.2	4.7	18.4	17.8
コネ	0.4	0.1	0.9	0.3	0.2
その他	4.4	4.9	4.5	4.1	3.4
何も武器になるものはない	6.7	6.4	4.8	8.5	6.8

まず、「就活における最大の武器は何か」についてです。

アンケート調査の対象は大学生ですから、就活の最大の武器は、本来は「大学で学んだ教養と専門知識」な筈で、その意味では、理系の学生が「学校で学んだ知識」を

第1に挙げたのは当然といえます。一方、文系の学生についてみると、男子は「コミュニケーション能力」を、女子は「笑顔」をそれぞれ第1に挙げています。

「コミュニケーション能力」や「笑顔」が重要である事はいうまでもありませんし、それがなければ就職は難しいでしょう。しかし、採用する側からすれば、それが最大の決め手という訳ではないと思います。

組織人としていつも笑顔を絶やさず、外部の人ともコミュニケーションが取れるというのは採用の是非を決める上で重要な要素には違いありません。ただ、私は現在社会福祉法人の経営責任者をしていただきますので、そうした立場から申し上げれば、

私がより重要だと思い、関心があるのは、採用しようとする職員が福祉の事についてどの程度理解しているか、どの様に事業団の事業に貢献しようとしているかという事です。

例えば、在学中に福祉関係の公的資格を取ったという様な事は、強力なアピール材料といって良いでしょう。その意味では、大学等で何を学んで来たかは極めて重要です。また、就職を希望している会社等の活動内容をどの程度理解しているかという事も重要で、それを聞けば、受験者の情報収集力や熱意といった事も当然見えて来ます。

「アルバイト経験」を第1に挙げる学生も少なくありませんが、例えば、福祉の現場で働くために色々なグループホームでアルバイトをして来たという様に、ある目的を持ってアルバイトをして来たというならともかく、アルバイトの経験が幾ら豊富でも、それだけでは採用の決め手にはならないと思います。

学生の皆さんは、それぞれの企業がどの様な人材を必要としているかを良く考え、そこに響くものを戦いの武器にすべきです。

何事も、小手先では旨く行きません。まずは、何故その企業や業種を選択するのかという明確な意思を持たねばなりません。そのためにも、情報収集力と行動力は就職戦線を戦う最も必要な武器だと思います。(塾頭：吉田 洋一)